



今知りたい！ SDGs授業実践紹介！理科/社会

「SDGsを授業で取り入れたいけれど、まずは何から始めればいいのか…」と感じている先生に向けて、宝仙学園小学校の吉金佳能先生と、横浜市立幸ヶ谷小学校の宗像北斗先生に、SDGsの授業実践をご紹介します。

理科の授業での実践をご紹介します！



6年 生物と環境

宝仙学園小学校
吉金 佳能

SDGsは地球の未来を考える重要な視点の一つです。世界共通の問題であり、自然と意識できるように、理科学習においてもさまざまな場面で取り上げています。

一般社団法人Think the Earthの手がける「SDGs for School」というプロジェクトでは、SDGsについて「学びから行動へ移すための5ステップ」を提案しています。SDGsをテーマにした授業をつくる際には、この5ステップを意識しています。

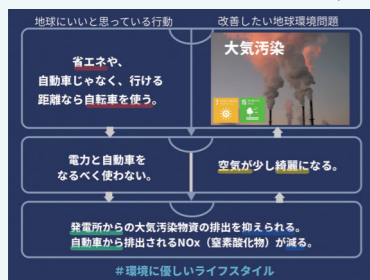
- 1 SDGsを学ぶ
- 2 SDGsで学ぶ
- 3 SDGsを体感する
- 4 SDGsでつながる
- 5 SDGsの本質的課題解決行動へ

今回紹介する実践は、「SDGsで学ぶ」段階の活動です。子どもたちは、事前に国語でSDGsについて学習をしていました。理科では単元のはじめに、どのような地球環境問題があるのか、インターネットを使って調べ、全体で共有しました。

その際、調べた問題と関係の深いSDGsを結びつけて、画像のような1枚のカードをつくりました。子どもたちは、提出されたカードを分類したり、その問題を解決するためにできる行動について考えたりしながら、地球環境問題についての考えを深めていきます。



▲子どもが作成したカードのイメージ (ロイロノートで作成)



その後、学習のアウトプットとして、興味をもった地球環境問題について動画制作を行いました。動画では、

1. 自分が紹介したい地球環境問題の名前
2. 地球環境問題の原因
3. 地球環境問題に対して人ができるアクション

この三つについて、約30秒の動画で紹介しました。動画は、端末に入っているプレゼンテーションソフト(Keynote)やiMovie、ロイロノートなど、子どもが作業しやすいツールを選択して制作しました。出来上がった動画を、班の人と見せ合い、互いにフィードバックを行いました。

人は誰かの行動を変えることはできません。しかし、行動を変えるきっかけをつくることはできます。子どもたちは、見えない相手を想像しながら、動画を見た人が少しでも行動を見直すことを目標にこの活動を進めました。

同じ学習を、動画制作ではなく、SNS風ツイートという形で行ったこともあります。ロイロノートで画像のような枠を作り、メッセージと写真・イラストを入れて、インパクトあるツイートを考えた活動です。

こうしたアウトプットを活動に位置づけることで、問題をより自分ごととしてとらえ、学びを深めることができると実感しています。

授業ではこんな工夫をしました！

地球環境問題、SDGsという大きな問題を、小学生の視点に合わせた学びにしたことがポイントです。問題を自分ごととしてとらえ、自身の行動と結びつけて考えていくことを目指しました。また、SDGsを学ぶうえでは「トレードオフ」という考え方を知ることが必要です。何かを達成するためには、犠牲にしなければならないものがある、という考え方です。地球によいと思っている行動が、意外なところで犠牲を生んでいることもあります。そうしたことを具体例をもって伝えることで、物事を批判的に見る力、多面的・多角的に考える力が養われると考えています。

参考資料 一般社団法人Think the Earth「SDGs for School」

社会の授業での実践をご紹介します！



5年 水産業

横浜市立幸ヶ谷小学校
宗像 北斗

本校はユネスコスクールに加盟しており、「自分、友だち、社会の幸せをつくる子ども」の学校教育目標のもと、中核理念にESD(持続可能な開発のための教育)が位置づいています。教育課程全体で育てたい資質能力の一つには「持続可能な社会の創造に貢献する力」があり、総合的な学習の時間を中心とした各教科の単元目標と、SDGsの17の目標を紐づけながら授業づくりの工夫を行っています。

先生方は、「エシカル消費」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。消費者庁のサイトで「人・社会・地域・環境に配慮した消費行動」と説明されているこの言葉は、持続可能性の観点から消費者の意識変容を目指して生まれたものだと思います。

そのような「エシカル消費」をするときに参考になるものとして、さまざまな産業が商品に付けている「認証ラベル」があります。この「認証ラベル」を「社会科で取り上げられる単元例」とともに列挙してみます。

| 認証ラベル | どのようなものに貼られるか | 単元例 | SDGsとの関連 |
|-------|--|---------|----------|
| | 持続可能な漁で獲られた水産物(MSC「海のエコラベル」) | 5年 水産業 | 12, 14 |
| | 適切な森林管理に貢献する商品(紙製品など) | 5年 林業 | 12, 15 |
| | 生産者への適正な価格の支払い、労働環境保護、農業使用規制、等の国際フェアトレード基準をクリアした製品 | 6年 国際協力 | 1, 2, 12 |

今回はこの中から、MSC「海のエコラベル」(以下、MSCラベル)を取り上げた実践をご紹介します。

まずは、2016年に「MSC漁業認証」を受けた、宮城県塩釜市にある「M漁業」さん(カツオ漁を中心とした漁業を行う会社)に取材をしました。そのときに、代表取締役のMさんから「100年先、1,000年先を考えた漁業を…」という話を聞き、これは単元構想の中核に据えたい言葉だと感じました。

第7時の後半には、MSCラベルが付いている商品を選ぶかどうかという判断の場に立たせるシミュレーション(MSCラベルが付いているカツオには10%高い値段を表示)を行いました。シミュレーションをしてみると、「やっぱり安い方を…」「わかってはいるんだけど…」とMSCラベルが付いていない商品を選ぶ子が数名いました。その後、子どもたちは、Mさん(MSCジャパン)からの「持続可能な漁業の担い手は、実は消費者であるみなさんなのです」という言葉に出会い、学んでいきました。



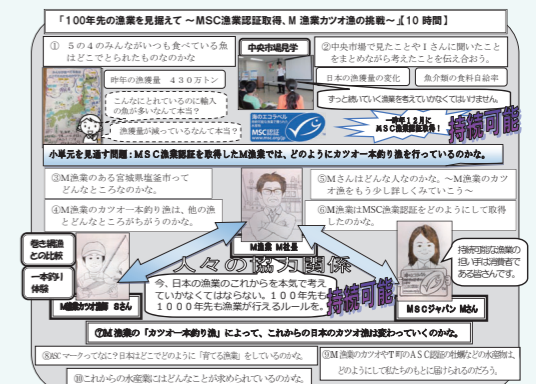
▲MSCラベルについて学ぶ子どもたちの様子

参考サイト エシカル消費とは? | 消費者庁 (https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/about/)

新学習指導要領[内容の取扱い]には、「消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」とあります。今回の実践から、子どもたちは漁業における課題に対して、いち消費者としての立場から「商品の価値を感じ、買い支えていく」という社会参画の仕方を学べたのではないかと感じています。

授業ではこんな工夫をしました！

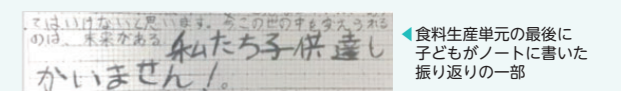
最近、食料生産単元の実践を見るたび、子どもたちが第一次産業における諸課題にばかり目を向けがちであることが気になっていました。社会のつくり手となる子どもたちが「日本の食料生産」について学んでいく際、未来志向を育てていけるような単元構成の工夫ができないものかと考え、着目したのがMSCラベルです。その認証を受けたり広げたりしようとする「人」の営みに着目しながらSDGsを学ぶことで、子どもたちがより切実感をもって追究することができるのではないかと考えました。



▲「100年先の漁業を見据えて～MSC漁業認証取得、M漁業カツオ漁の挑戦～」の授業展開の図

子どもたちからはこんな声も！

今、日本の食料生産がピンチだということをこの授業をするまで知りませんでした。自分たちが当たり前に米・魚・大豆・果物を食べられているのは、いろいろな人たちが協力してくれているから何とかなっているのです。その人たちの努力をむだにしてはいけないと思います。今、この世の中を変えられるのは未来がある私たち子どもたちしかいません。自分たちもお米をつくる人や魚をとる人たちの力になっていくことができることも分かりました。まず日本の国を知ることが第一歩。そして「今、自分たちにできることを本気で考えていく」ことが大切だとわかりました。



▲「食料生産単元の最後に子どもがノートに書いた振り返りの一部」

学習後には子どもたちからさまざまな感想が上がり、中には学習をきっかけに、イギリスに出張した父親にファストフード店のハンバーガーに付いていたMSCラベルを持ち帰ってきてもらった子もいました。(当時はまだ日本のものにはMSCラベルが付いておらず、日本と欧米の取り組みの進み方の違いについても熱心に調べていました。)

SDGsとの関連性を意識しながら実践を重ねる中で、子どもたちが積極的に社会に関わろうとするだけでなく、社会に変化を与えていくような可能性を感じ始めています。「この子どもたちがつくる未来のために…」と、先生もまた、未来志向をもちながら授業を構想していくことはとても楽しいことだと思います。